

柿生文化

柿生郷土史料館 情報・研究誌
住所:川崎市麻生区上麻生6-40-1柿生中学校内
電話:044-988-0004(柿生中学校)
<http://www.kakio-kyodo.com>

第50号



——柿生郷土史料館支援委員会——
小島一也 氏
委員長退職 たいへんご苦労さま

宜しくお願いします 久保倉良三 氏
新委員長 就任



柿生史料館の 発展を願って

柿生郷土史料館 前支援委員長
小島 一也

柿生中学校の新校舎が落成して満二年を迎えるとしています。

振り返ると校舎の全面改築要望から郷土史料館の設立と年齢を顧みず地域の皆様との実現に努力してまいりましたが、この程、機構が整った支援委員会の総会を期に委員の皆様のご理解を得て、その代表の仕事を辞させて頂く事になりました。長い間のご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

柿生という地は、禪寺丸柿に代表される古い歴史と自然、伝統、そして新百合ヶ丘に見る新しい文化の地をイメージしていくれます。幸いにしてこの史料館は、指導者に元校長の板倉敏郎氏という人材を得て学校と地域が協力し「柿生文化」の発行や「企画展」「カルチャーセミナー」等を開催している事はご存じの通りで各界から注目を浴びております。

後任には支援委員会全員の推薦で元玉禪寺町会長の久保倉良三さんに就任して頂く事になりました。久保倉さんは御尊父二代に亘る地域の名望家です。私も今後、年齢に応じたご協力をしたいと思いますので併せてよろしくお願ひ申し上げます。

先輩の思いを 大切にしながら

柿生郷土史料館 新支援委員長
久保倉 良三

この度、柿生郷土史料館の建設及び開館を主導された初代委員長の小島一也先生がご自身の健康上の理由にて委員長の職をご辞退されることになりましたが、この会は小島先生と板倉先生を中心形を整えてきた史料館だけにとても残念でしたが、その先生方より後任役を打診され、まさに晴天の霹靂、誠に驚き慌ててお断わりいたしました。

しかし、今度は総会の席において、多くの皆様方より指名される羽目となり、これではお断わりするのは失礼と思い覚悟を決めました。

とはいって私は皆様方がご存じの通り何の力もない人間ですが清水の舞台より飛び降りたつもりで、あとは皆様方のご支援とご協力を願い申し上げ、懇意ながら務めさせていただきますますのでよろしくお願ひ申し上げます。

川崎北部の修験を探るIV

「十三」という数字の謎 「十三塚」「十三菩提」

川崎市内に「十三」のつく地名は少なくとも7箇所あります。数ヶ所あるということは何か互いに関連性を持つ共通の意味をもっているに違いありません。そんな疑問からこの問題を考えてみました。

全国の「十三」地名

全国的に見て北は秋田県、南は鹿児島県まで分布し、主に関東以北に多く存在し、①名称は「十三塚」と呼ばれることが多く、他に「十三坊塚」「十三法壇」「十三仏塚」「十三塚原」「十三本塚」や「山伏塚」等の名称です。

②設置場所は主に村境や郡境や道筋で、③大きさは径1~2M、高さ1M弱の小型の円型の塚で一列に13個並ぶものが多いようです。④特徴は13個の真ん中の塚が大きいということ、内部からは何も出てこないが塚上や中から板碑が発見される場合もあります。⑤付隨する伝説としては主に「武将を祀った」「山伏が生きながら入って死んだ」等があげられます。⑥いつ頃のものかというと室町時代末から江戸時代にかけてと考えられています。⑦何のためのものかというと、名称に山伏や法壇(山伏が祈る場所)がある点や伝説を考えてみると修験者(山伏)の祭祀場(祈りを行なう場所)であったのではないかと考えられます。

川崎の「十三」地名右の表を見ますと、溝口の十三坊の1ヶ所を除いて、ともに多摩丘陵の中に位置しています。また、すべてが村境にあり、十三という共通の数字がつき、小塚が伴い、場所は大体台地状の場所と思われます。また江戸後期執筆の新編武藏風土記稿には村の中の主な地名として「十三」地名が記述されており村人からはよく知られていたようです。

五力田の「十三塚」は? 東京都教育委員会が昭和34・43年に行なった調査では、五力田と平尾との境界付近にあり13の小塚が一直線に並んで、中央の一基が若干大きく「十三塚」の典型的なスタイルで、遺物は発見されませんでした。ただ、隣接

する「入定塚(にゅうじょうづか)」には9基の板碑が発見されています。

「十三」の数字は何? 修験者と関係の深い真言宗・天台宗で大切にしている「十三仏」が関係していたと思います。死者の裁判をする13の仏(正融には如来・阿弥陀如来など借りを得た者、菩薩・地蔵菩薩など借りを得るために修業している者)は冥界の裁判官で死者の生前の行いを審理(覗くこと)しています。

「十三塚」の意味修験者は死者の成仏を助け、生きる者の幸福を祈るために十三の塚を造り、そこを祭壇にして、現世、あるいは死者と冥界とのパイプ役を果たしながら修行ていたものと思われます。(参考資料:「修験道辞典」「修験道の考古学的研究」「川崎地名辞典」) 【補足】十三菩提遺跡について
縄文時代遺跡の上に、中世に「十三菩提」が造られたため、その縄文遺跡を「十三菩提遺跡」と命名したものと思います。)



(五力田の十三塚)

「十三塚」

「十三菩提」

川崎の十三地名

◎麻生区五力田→十三塚

(東京都綾瀬市平尾2丁目との境界付近)

◎高津区溝口→十三坊

(風土記稿によると二子村との村境付近か、周辺の村に多くの十三塚があると記述されている)

◎高津区久末→十三菩提

(高津区明石穂の台地上の地域か)

◎高津区久末→十三本塚

(県営久末団地近く、伊勢原の久末天照社付近か)

◎高津区上作延→十三坊原

(風土記稿によると、上作延村の西南の平地、隣の長尾村ニ神木あたり、にも同地名があるという)

◎高津区野川→十三本堂

(十三菩薩・十三本塚ともいわれる、現川南台地付近)

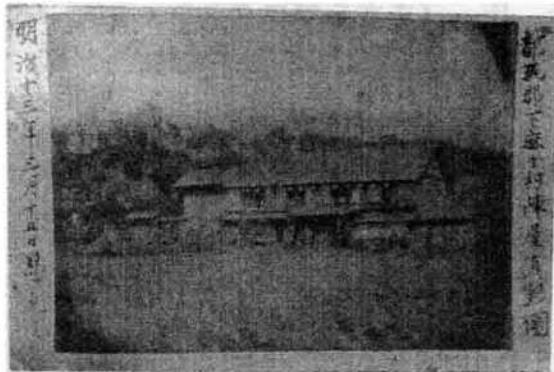
◎多摩区長尾→十三本原

(風土記稿によると上作延村と地続きの原野をいう)
(現在の上作延から平・土橋に至る尾根道の周辺か)

132年前の郷土の写真が見つかる

—明治13年都筑郡下麻生村陣屋
在りし日のふるさとの姿—

—現在、柿生郷土史料館で公開中！—



今から132年前の下麻生村の陣屋をバックにした村人の姿を映し出した古写真が見つかりました。

持ち主の下麻生、村田和男氏が郷土を知る資料として活用してくださいと持参してくださいました。

写真の左側には「明治十三年三月十五日寫之ス」と右側には「都筑郡下麻生村陣屋真影図」と書かれています。ほぼ江戸時代末期の郷土の姿と同様と考えていただいてかまわないと思います。

それにしてもいったい誰が撮影したのでしょうか。この当時、写真撮影の技術を持っているのは、ごく僅かの人だけであったと思います。もしかしたら横浜からやってきた欧米人であったかもしれません。写されているものは、陣屋らしき建物と建物の前にはたくさんの人々が写し出され、弓の稽古をしている姿がうかがわれます。

柿生郷土史料館では現在「写真でたどる郷土百年の歩み展」を開催しておりますがその展示品と一緒に展示しておりますので是非ご覧いただきたいと思います。

郷土の歳時記

7月 (文月 ふみづき・ふづき 亂月もとは布美月といい、保布布美月(ほふふみづき)ニ「穂を含めり」ということからついた呼び名です
また、七夕の時、牽牛・織姫に文を供えて祭ることからこの名称がつきました。)

◎七夕(たなばた) 7月7日



節句は1月1日、3月3日のひな祭り、5月5日の端午の節句と並んで大事な節句のひとつでした。色紙で短冊などの飾りものを作り、朝、里芋の葉に溜まった露を探ってきて墨をすり短冊に筆で、天の川などや星の名前、自分の名前、願い事を書いて、真竹の小枝につります。そうすると字が上手になり、女の子は、お裁縫や芸事が上手になるといわれました。七夕が終わると次の日の朝早く近くの川へ竹を流しにいきました。(「ふるさとは語る—柿生・岡上のあゆみー」より)

◎お盆(新曆の場合7月15日~8月15日)

先祖供養の代表的行事です。正式には盂蘭盆会(うらんえい)といいますが、これは古代インドのサンスクリット語からきたものです。

さて、お盆はこんな理由で始まったといわれています。それは「昔、釈迦の弟子である目連(もくれん)の母親が餓鬼道(餓ぎどう死後に行く世界のひとつで常に飢えに苦しむ世界)に落ち、逆さ吊りの刑を受けて苦しんでいる姿を透視し、母を救うために、お釈迦さまに教えられ、7月15日に修行僧にたくさんの食物を送り(僧が喜ぶことにより母の罪が救われるという考え方)母の供養をした」という話から始まったといわれています。

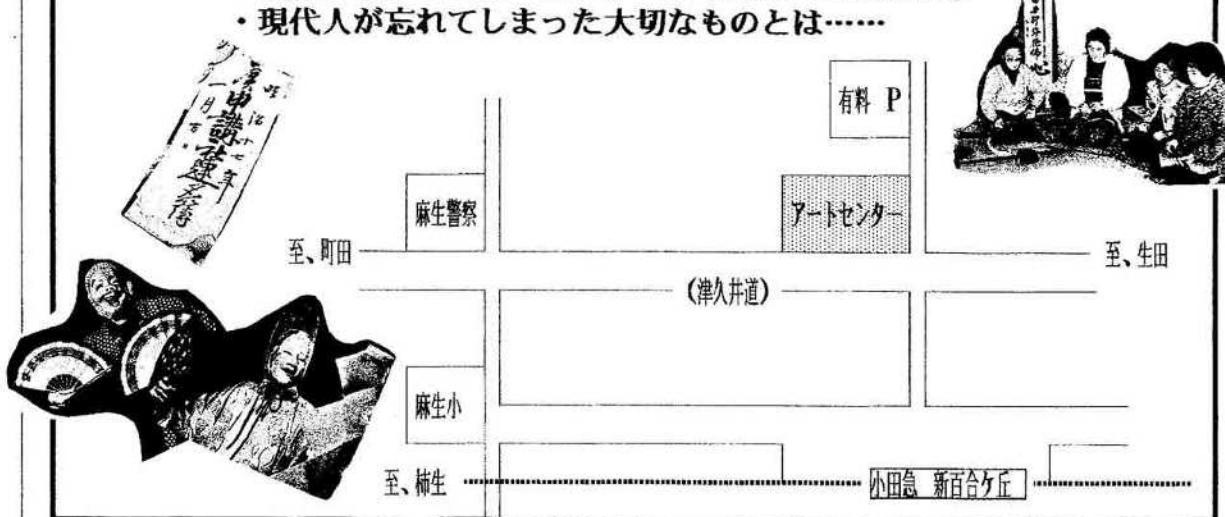
柿生郷土史料館

第36回 カルチャーセミナー

川崎市教育委員会共催

「うつし世の静寂(じま)に」 —必見！何度も見ても新たな感動が！—

- ◎講 師 小倉 美恵子 氏 (さらプロダクション)
- ◎日 時 7月30日(月) 午後6時開演 (受付: 午後5時30分より)
- ◎会 場 新百合ヶ丘「アートセンター」映像館
- ◎入場料 (会員料、他) 大人300円 こども100円(中学生以下)
- ◎内 容
 - ・人々はなぜ「講」を守り「伝統芸能」を復活させたのか
 - ・祖先が培ってきた「祈り」「絆(きぬ)」の意味は何
 - ・現代人が忘れてしまった大切なものは……



柿生郷土史料館開館のご案内

開館時間

開館: 午前10時

閉館: 午後 3時

開館日

8月 4日(土)

8月 11日(土)

8月 18日(土)

8月 25日(土)

※7月 1日(日)は館内整理のため休館といたします。

※7月30日(月)18:00~アートセンター映像館(

新百合ヶ丘)カルチャーセミナー「うつし世の静寂に」

柿生郷土史料館の7~11月の催物

(特別企画展)

※問い合わせ 988-0004 (駐車場)

第6回 特別企画展

「写真でたどる

郷土百年の歩み展 I」(期間: 4/21~ 7/22)
「 " II」(期間: 8/18~11/25)